

Leaf @ 同窓会

No. 6

編集・発行

島根大学教育学部同窓会（本部事務室）

松江市西川津町1060 島根大学教育学部内（〒690-8504）

Eメール e-dousokai@edu.shimane-u.ac.jp

http://www.suaa.shimane-u.ac.jp/edu/index.html

電話（新設）0852-32-6297（FAXも同）

教育学部の
学部長が
変わりました

「新任のご挨拶」

教育学部長（同窓会副会長）

小川 巖



はじめまして。小川巖（おがわいわお）と申します。秋重幸邦教授の後をうけ、本年度から学部長を務めております。特別支援教育、特に障がい児心理と指導法が専門です。

平素から、学部の教育・研究活動や就職支援活動に多大のご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。就職支援活動等でも面接官としてご指導・支援いただいておりますが、単なる外部の専門家とは違う先輩のお話・アドバイスを直に耳にすることができるこのセミナーは後輩たちに非常に好評です。

さて、昨年12月に文部科学省によって全国の教育学部のミッションが公開されました。本学部は「地域密接型学部」として、（グローバルな視点から）「現代的・地域的教育課題を解決する高度な専門性をもった教員を養成する」こと、また、地域貢献人材の育成の一環として平成28年度から専門職大学院である「教職大学院」を新設することを明記しました。大学での教員養成と就職後の研修・教育、これらが切り離されることがない、卒後においても連続性をもった、同窓会員の皆さんに連続感・一体感をもっていただけるような学部をめざしたい所存です。同窓会員の皆様には、ますますのご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

10月
12日
(日)

島根大学は、法人化10周年を迎え、記念事業が行われます。
ホームカミングデーにおでかけ下さい。

全学企画〈12:00-15:00〉

場所：松江キャンパス 島根大学ホール

- キャンパスツアー
- 学生からの近況報告
- しまだいユーモア連歌大賞発表 他

教育学部同窓会企画〈15:30-18:00〉

場所：教育学部棟5階多目的ホール

- 地域で活躍する教育学部の現役生と卒業生（仮題）
- （別紙ホームカミングデー案内パンフ参照）

同窓会の組織が新しくなりました!!

本年度の同窓会役員総会は、6月14日(土) 島根大学教育学部多目的ホールにおいて開催され、「規約」の一部改正を行い、副会長の増員、副理事長の新設が承認されました。また、引き続き同窓会活動の活性化をめざし、各支部の情報・意見交換が行われました。

①副会長の増員、副理事長の新設

〈新役員挨拶紹介〉

【会長】
有馬毅一郎

【理事長】
舟木 賢治

【副理事長】
斉藤 英明

【副会長】
小川 徹

齋藤 重徳



神本 晃
白石 隆子

黒田 章義



島根大学教育学部人間生活環境教育講座の舟木と申します。この度、齋藤重徳先生の後任として、島根大学教育学部同窓会理事長を勤めさせていただくことになりました。有馬会長のもと、微力ではありますが、教育学部同窓会の活動を精一杯支えてまいりますので、何卒ご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



本年度より、教育学部同窓会副理事長を務めさせていただくことになりました。非才の身には甚だ重く感じられる大任ですが、会員相互の親睦と同窓会の発展のために責務を全うしたいと存じますので、何とぞご協力とご指導を賜りますようお願い申し上げます。



今年度、新たにおかれた副理事長を務めることになりました。学校や教委で勤務した後、現在は教育学部でこれまでの経験を活かした教員養成に携わっています。有馬会長、舟木理事長のもと、同窓会活動の活性化に励みます。どうぞよろしくお願いいたします。

②分掌(役割分担)を明確にしました。

- 総務・統括部 (会議の招集、主宰など)
 - 役員総会 ●理事会 ●本部・学部合同理事会 ●事務局幹事会
- 情報収集・発信部 (編集・発信など)
 - 「同窓会誌」編集 ●「Leaf@同窓会」編集 ●「同窓会名簿」 ●「ホームページ」
- 連携・支援部 (大学本部、同窓会連合会、教育学部、支部などとの連携・支援)
 - 島根大学同窓会連合会 ●ホームカミングデー事業(実行委員会)
 - 教師力パワーアップセミナー支援事業 ●教育振興奨励賞事業
 - 卒業生代表者会
- 支部活性化事業
 - 支部活動促進事業 ●新支部設置・整備事業
- ※「同窓会誌」編集委員会 ●ホームカミングデー実行委員会 ●本部学部合同理事会

同窓会事務局からのお願い・連絡

- 同窓会費(年額2,000円)を納入してください。
 - 各支部を通じて納入してください。
 - 支部に所属されていない方は個人会員としてご加入ください。個人納入には郵便振替をご利用ください。
- 口座番号：01440-5-6975 加入者名：島根大学教育学部同窓会
- 終身会員(原則60歳以降)は一時金20,000円です。
- 「同窓会」開催の際は祝い金を送ります。お知らせください。(支部交流会、同期生会、専攻・研究室別など)
 - 10人まで=5,000円 25人まで=7,000円 40人まで=10,000円 41人以上=20,000円
- 事務局に固定電話(FAX兼)が設置されています。(携帯は廃止) TEL.0852-32-6297

同窓会 支部活動の近況報告

教育学部同窓会では、支部活動の再興を願って働きかけも行っていきます。最近の支部活動の様子をいくつか紹介します。

大田支部

盛り上がった大田支部交流会

8月3日に大田支部では初めての支部交流会を開きました。参加者は支部15名に齋藤副会長を加えた16名でした。年齢層も昭和25年卒から56年卒まで幅広く、印象深かった先生方の授業や学生運動の様子など、まるで昨日のように楽しく語り合うことができました。母校に対する愛情と同窓生の絆を確かめる良い機会となりました。



文責：安藤賢一【支部長・八束義夫】

※大田支部は、次に、講師を招いて研修会を開催する計画を進めておられます。

東京支部

10月26日(日)の第58回東京支部総会・懇親会の開催に向け、役員で手分けをし鋭意準備を進めているところです。会場は、市ヶ谷、西新宿、神楽坂等と会場を変えての開催でしたが、平成19年11月の創立50周年記念総会より、現在の原宿東郷会館水交会に会場を定め、老・壮・青の世代がつながり、たくさんのお窓生が「楽しく・元気に・役に立つ」魅力ある同窓会の開催を目指して頑張っています。

【支部長・嶋 治行】



浜田支部

思い出話に花が咲く

浜田支部交流会を開催しました。43名の参加があり、第一部では、「同窓生の発表」や声楽家の大岩誓子さん(島大特音卒・東京在住)の「歌・唄がたり」を行い、第二部では懇親会を行いました。「よさこい」の飛び入りもあり、懐かしい話で盛り上がりました。後に、「楽しい時間を過ごした。」というお手紙も頂きました。今後も縦と横のつながりを大切にしていきたいと思っております。



支部長：永見 弘/理事：仙田健治

※浜田での交流会は、同窓会本部と共催で開催する初の企画でした。

※同窓会本部と共催で交流会などを希望される支部はご連絡ください。年に1~2の支部で実施する予定です。

※8月17日山口市で開かれた世話人会有馬会長、舟木理事長が参加すべく向かいましたが豪雨によるJRのトラブルで途中で引きかえしました。

山口支部(開設準備)



昨年、有馬同窓会長から同窓会の活性化に向けた取組の一つとして支部の新設にも取り組んでおり、山口県支部設立に向けた取組を進めたい旨の電話をいただきました。今年度の教育学部同窓会役員総会にオブザーバーとして参加させていただき、同窓会の活動について多くの事を知る事ができました。山口県においても8月に山口県支部設立に向けた世話人会(10名参加)を開き、設立に向けた組織づくりに取り組むことにしました。今後は同窓会事務局とも連携し、設立に向けた取組を進めていきたいと考えています。

世話人：川上修一



その他の支部の動き

本年度以降、新たに交流会などの企画を進めておられる支部があります。すでに独自の活動を続けておられる支部もあります。(次号「同窓会誌66」で特集) また、鳥取県西部支部、広島県支部などは設立に向けて準備が進められています。支部活動を計画される場合は、本部事務局にもご連絡ください。なるべく連携・協力して進めたいと考えています。

事務局



こんにちは

加藤寿朗さん

島根大学教授

(教育学部初等教育開発講座)

Q1. どんな趣味や楽しみをお持ちですか？

読書や音楽鑑賞が趣味ですが、神社仏閣巡りも楽しみの一つです。天気の良い日に出雲国風土記に登場する神社へよく出かけます。また、あまり時間をとることはできていませんが、全国にある史跡など古いものを見て回ることも好きです。

Q2. 学部教員としての「ある一日」の様子を

県内の社会科好きの有志からなる島根社会科懇話会という研究会の事務局をしています。夏休みの研究会に3年と4年のゼミ生10人と出掛け、会場準備を

行うとともに、公開授業の記録をビデオや筆記によってとりま

した。その記録をもとにゼミ生との授業検討会を行いました。学生が捉えた視点を大切にしながら授業を分析する、このような機会をできるだけたくさん持ちたいと思っています。

Q3. 小・中学校「社会科教育」の課題は？

先日、ある座談会で「社会科で育てたい子どもを一言で表現すると何ですか」と聞かれました。答えたのは「当たり前と思わない子ども」でした。私たちの社会は今どうなっているか、なぜか、どうしたらいいか、

ることが課題だと思えます。

Q4. 今の学校教育への要望がありましたら

要望するより、自分は何ができるのか、しなければなら



加藤寿朗さん

1962年島根県生まれ。2003年から現在まで島根大学。昨年度第2回「教育振興奨励賞」を受賞。(「同窓会誌65」参照)

もっといい方法はないか、そのような問いを投げかけられる子どもを育てたいと思います。社会科の授業が終わっても問い続けられる子どもを育て

もっといい方法はないか、そのような問いを投げかけられる子どもを育てたいと思います。社会科の授業が終わっても問い続けられる子どもを育て



研究会で講演をする加藤さん

私の「社会科教育」研究

私の研究分野は、教育学の中でも教科教育学、特に社会科教育を専門としています。小学校や中学校、高等学校の社会科や社会系教科では、どのような資質・能力の育成を目指して、何を、どのように教えることが必要かを考える研究です。子どもがドキドキ、ワクワクする授業、う〜んと考える授業、なるほど！そうか！と納得する授業、もっと考えてみたくなる授業、そんな社会科授業を作ってみたいと思っています。そのため継続的に取り組んでいることは、「子どもの社会認識発達と形成に関する実験・実証的研究」です。

子どもは社会をどのくらい知っているだろうか。社会をどのように分かっているだろうか。それは、学年や学校段階によってどのような違いがあるだろうか。これらは、社会科授業をはじめと

して、子どもの社会認識を育てる教育を行う際に、教師が抱く基本的な問題意識だと思えます。この研究では、子どもの社会認識発達に関する量的・質的調査を行いながら、子どもが社会的現象を認識していく過程とその特徴、発達に即した社会科授業づくりについて考察しています。これまでの調査の結果、児童・生徒の社会認識は、知識の量的増加や質的变化、分かり方の変容というダイナミックな発達の様相を示しました。特に、小学校中学年から高学年にかけて、中学生では2年生から3年生にかけて発達の質的転換期が想定されます。現在、このような社会認識の発達仮説に基づけば、どのような社会科授業が必要なのかを実験的な授業を通して検証しています。

※このページは、現在の教育学部の先生方を紹介するシリーズです。